

陳情を受けてから審査までの流れ

市民団体から中学校再編に関する予算を認めないとする陳情が市議会に提出された。それを受けて、総務文教厚生委員会で議論を交わし、団体代表者から趣旨説明を受けた後、予算委員会でその陳情の審査を行った。予算委員会でも議論を交わし、採決の結果、陳情は不採択となった。

中学校再編案

現在の市立中学校3校を1校に統合し、県立勝山高校の敷地内に新中学校を建設することで、中高を連携させて相乗効果を狙う案。特別教室（理科室や音楽室など）や体育館、グラウンドを高校や周辺施設と共用する併設による中高連携案。

市民団体からの陳情の趣旨

勝山高校の敷地内に新中学校を建設、運営する計画は、高校施設や学校周辺施設を共用することが前提であることから、教育施設としての問題や多感な時期である生徒に与える様々な問題、教職員が教育現場から想定される教育システムの問題など、多様な面からの問題点が考えられる。そのため、中学校再編案を推進する予算を認めないでほしい。

両者の意見は平行線であり、採決の結果、予算委員会では①の議員が多数となった。これに対し、②の議員は陳情の採択を求めて本会議で討論したが、採決の結果、陳情は不採択、予算は可決された。

議論の概要と今後の動き

議員のスタンスは、下記の2つに大別された。(下記表中の内容は大まかな意見)

① 陳情は不採択、予算は可決とする議員

これまで進められ練られてきた再編案を止めることで、これまでの議論が無駄にならねない。

また、調査費が予算で認められれば、より具体的な議論ができる。今後は、中高連携の利点を活かし、想定される問題点は陳情意見などを参考にして良いものにしてほしい。

② 陳情は採択、予算は否決とする議員

市民や元教職員からの問題提起は、再編案の基本にある中高連携の部分が根本である。しかし、理事者は再編案の基本である中高連携案は変えないとしているので、参考にできないのではないか。

また、福井県高等学校教職員組合から福井県教育委員会に対し、勝山高校敷地に統合中学校を建設する計画は合意形成もなく一方的に進行している状況で、この計画を容認したことは問題であると抗議していることも考慮すべきだ。

予算委員会報告

新年度当初予算を
審査しました

予算委員会では、令和4年度勝山市一般会計予算119億2800万円(前年度比4.8%増)、令和3年度勝山市一般会計補正予算、陳情第8号「中学校を勝山高校敷地内に建設することに反対する陳情書」の審査を行い、予算はいずれも可決し、陳情は不採択に決しました。

新年度予算は、「わいわいわくわく安全安心のまちかつやま」の実現を目指して2つの「創る」4つの「守る」のもと、市民が積極的にまちづくりに参加できるように「ここに地域づくり基金」の創設など、今後のまちづくりに意欲的に取り組むものとなっています。陳情8号については、団体代表者から陳情書の趣旨説明を受け、その後、委員会で議論しました。理事者からは、市民の皆さんからの意見を4月から開催予定の専門部会でしっかり検討し、事業の進捗については議会に適宜説明していくとの答弁がありました。